

OKoTaC 通信

オコ タッ ク

2012 年 2 月 10 日発行

NO.3



目次

多文化な子ども@大阪のニュース	p2
『サタディークラスのクリスマス会』	
『門真市のクリスマス交流会～門真なみはや高校』	
『Wai Wai! トーク Part2』	(p3)
NPO 活動報告：文化庁委託事業	
『高校生のための日本語 冬期講座』	p3
『外国にルーツをもつ子どもへの日本語指導ボランティア養成講座 2011』	p4
海外子ども事情『ニューヨーク市高校訪問記②』	p5
Air Mail メキシコ便り③ 『家の前の教会のフェリア（お祭り）』	p6
地域の子ども支援教室から③	
『にほんごサポート ひまわり会』（大阪市平野区）	p7
事務所が移転しました	p7
イベント情報	p8



多文化な子ども@大阪 のニュース

～ みんなあつまれ X'mas ～



『クリスマス会だよ！！～多文化な子どもへの学習支援教室「サタディクラス」』

2011年12月17日、この日はサタディクラスの子どもたちのクリスマス会でした。

子どもたちは、ボランティアと一緒に買い物、部屋の飾り付け、メイン？のホットケーキを焼く、ビンゴの用意などそれぞれに準備をしました。いつも活動している子ども子育てプラザに集まり、電車で会場まで行くのも一緒でした。

子どもたちの表情は、いつもとは違う顔、顔、顔です。楽しそうな顔を見てると参加したみんなが楽しくなります。友だちを連れてきた子もいます。めいっばいお洒落もしています。声のトーンも違います。う～ん、プレゼントが待ち遠しいな！と思いながら？買ってきたお菓子もホットケーキも食べることに、食べることに、ぱくぱくぱくぱく、と。子ども



もってすごいなあときたり感心したりです。たこ焼き器、ワッフル焼き器も動員して焼いた丸い形、四角い形、楕円の形のホットケーキに真剣な顔でクリームたっぷりのトッピングをしています。女の子は「わあー」と歓声を、男の子は「あまっ、あますぎるー」と悲鳴を上げたりしています。お楽しみのビンゴも大学生、高校生のボランティアが自分たちも楽しみながら進めてくれたので大助かりです。特に高校生の子は、サタディクラスの先輩で、自分の勉強で忙しいにも関わらず後輩の受験を心配して来てくれた子です。頼もしいな。

直前まで子ども同士の行き違いがあったり、みんな来れるかな？というボランティアの心配もよそにタイ、ブラジル、韓国、中国出身の子どもたちが楽しいひとときを過ごしました。あすもみんなで元気に過ごそう！

(Y.T)



『門真市のクリスマス交流会 ～門真なみはや高校』

2011年12月22日、門真市及び周辺の小中学生を招いて門真なみはや高校で渡日生の交流会が開かれました。門真なみはや高校多文化交流部が主催し、小中学校の渡日生たちに高校進学希望を持たせると相互の交流をはかることを目的に毎年開催されています。今年は53名の小中学生が集まり、ゲームや出し物で楽しい1日を過ごしました。



交流会は、サンタの歌と踊りで幕が開け、学校代表の挨拶の後はみんなが楽しみにしているクリスマスケーキです。総勢90名で「メリークリスマス」とジュースで乾杯し、ケーキを食べました。脇田小学校の子どもたちは「ホオンヤンファブ」という中国の歌や寸劇を、門真第四中学校の子どもたちは中国コマを披露してくれました。チーム対抗のスプーンみかん運びゲームでは小学生から高校生までが助け合い、風船割りゲームでは全員で競い合い、笑い声が絶えない時間でした。最後は「ジングルベル」の大合唱。別れを惜しみながら大声で歌いました。



この日のため、門真なみはや高校多文化交流部の生徒は早くから準備を進めてきました。小中学校の後輩たちに楽しんでもらい、高校進学夢を追い続けてほしいからです。小中学校の皆さん、頑張って勉強をして、ぜひ高校へ来てください。

(M.S)



『Wai Wai!トーク Part 2』 主催：大阪府立学校在日外国人教育研究会

1月21日、『Wai Wai!トーク Part2』が府立住吉高等学校で開催されました。『OKoTaC通信 NO.1』でお伝えした7月の高校2、3年生の『Part1』に引き続いて今回の『Part2』は21名の1年生が自分の思いを伝えました。発表言語は中国、韓国、フィリピン(タガログ)、タイ、ベトナム、ネパールなどです。

発表された一部を紹介すると、遠足で京都へ行ったときのエピソード、自分を育ててくれた祖父母への思い、日本の英語教育への注文、日本での初めての高校生活を送る不安の中で友を得た喜び、来日当初に不思議に思った日本語のエピソードをきっかけに自分の生き方を考えるに至った経験を身振り手振りをまじえて話したり、在日2世のオモニが自分の学校生活をそのときの社会情勢をからめながら話されたりと、ここでは紹介しきれないほどのいろいろな思いをみんなが母語で発表しました。私は毎年、この『Wai Wai!トーク』を聞かせてもらっていますが、毎回感動をしたり、多くのことに気付かせてもらうきっかけになっています。その期待は今回も裏切られることはありませんでした。



なお、今回からは以前のように優秀賞、最優秀賞などの賞を設けず、5人の審査員がそれぞれ違った観点から、1人ずつ特別賞という形で賞を贈りました。さらに表彰式ではそれぞれの審査員が賞に選んだ理由を述べるという形に変わりました。このイベントはもともと一般のスピーチコンテストのように発表態度や正確な発音力などの発表技術、能力を競うものでなく、どれだけ自分の思いを伝えるかを審査基準に置いていたもので、そのような点から考えると今回の表彰方法の変更は設立当初の趣旨に沿ったものといえます。

また、来年度どのような発表がされるか、今から楽しみにしています。

(Y.H)



.....

おおさかこども多文化センター 活動報告

23 年度文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育」委託事業

「高校生のための日本語 冬期講座」

2011 年 12 月 23、24 日に「高校生のための日本語冬期講座」が実施された。23 日は天神橋筋 6 丁目にある「住まいのミュージアムくらしの今昔館」の見学、24 日はその復習と作文指導であった。私が、3 年前に初めて参加した時は、いろいろな高校から 20 名近い参加があったが、今回は八尾北高校より 3 名、門真なみはや高校から 3 名、泉尾高校から 1 名の合計 7 名の参加であった。



高校生のための日本語講座の本来の目的は、少数点在校の生徒間の交流と、日本語指導であったように思う。しかしそのような高校からの参加は思うように増えていない。日本語の指導が、常々ままならないという思いを抱えている学校や教員が多いのではないかという声を日本語指導研修の機会によく聞くのだが、このような機会が設けられているにも関わらず、意外にそれが活用されていないのは残念でならない。



今回の参加者もこれまでの生徒と同じように、今昔館においては、日本の銭湯や商家の建築様式などについて大変熱心に説明を聞いていた。生徒達はワークシートの書き込みをし、独楽やけん玉の玩具で遊んだり、着物を着たり、携帯用筆記用具「矢立て」で習字を楽しんだりしていた。翌日の作文指導では、スライドによる復習を行い、その後感想を作文にまとめ発表があった。日本語能力の差はあるが、今回は中国出身の生徒ばかりで、母語で説明があったり、わからないことは積極的にサポーターに質問したりして、みんな熱心に取り組んでいた。

日頃交わることのない異なる学校の生徒が、一同に会し、日本文化に直に触れ、共に日本語指導を受けることができるこのような機会をもっと多くの学校や生徒に広く知ってもらい、ぜひ活用していただきたいと痛切に感じた。(T.T)



23 年度文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育」委託事業 「外国にルーツをもつ子どもへの日本語指導ボランティア養成講座 2011」を終えて

昨年 9 月にスタートした当講座について、前号で第 6 回までの様子をお伝えしました。概要と知識の整理、日本語指導の基本の学び、小学校・中学校・高等学校の教育現場での実践的指導についての学び等が主な内容でした。そして 11 月末に、全 10 回の講座を無事終了しました。今回は第 7 回以降の様子をお届けします。



第 7 回…地域に学ぶ実践的指導Ⅰ…NPO 法人「みんなのおうち」外国籍家族共生担当理事、小林普子さんに新宿区における取り組みからお話いただきました。多国籍の街・新宿の現状、居場所としての学習支援教室、支援活動から見た問題点、新宿区の課題等について統計やビデオ、多彩な資料や多くの事例を通してのお話でした。

★アンケートから「指導する問題点などという前に、その機会を設ける難しさ、理解を得ることの難しさを知ることができました。現状を教えていただいた後の問題提起で、とても分かり易かったです」

第 8 回…地域に学ぶ実践的指導Ⅱ…中央区で活動している、多文化な子どもへの学習支援教室「サタディクラス」の見学を行いました。ここは、6～18 歳の子どもを対象に、子どもたちの居場所作りと日本語・教科学習支援を行っています。参加しているタイ、ブラジル、中国出身の子どもたちはほとんどが高校受験生でした。★アンケートから「サタディクラスが完全にボランティアの方々だけで運営されていること、学生ボランティアの方にとっては、大切なことを学ぶ機会にもなっていること、一方で行政の側の援助についてはこれからと思いました。子どもたちは、一人一人背景が異なり、ダブルリミテッドの状況(母語も日本語も十分獲得できていない)の子どももいて、大変な中、懸命に指導されていることに敬意を表します」

第 9 回…地域に学ぶ実践的指導Ⅲ…大阪国際交流センターで活動されている「こどもひろば」事務局長の鶴飼聖子さんに、こどもひろばでの進路支援についてお話を伺いました。進路支援の方法やダイレクト入試(母国の中学校を卒業



業してから日本に来た子の受験)への対応を「愛を持って見守る・寄り添う・待つ」、またボランティア活動については、「知る・話す・聴く・つながる」というキーワードを紹介されながらお話をされました。また、後半には 2 名の当事者の高校生にも語ってもらいました。★アンケートから「外国にルーツをもつ生徒の実体験、苦労話が聞けてとてもよかった」

第 10 回…当事者からの発信…当事者と支援者の立場から大阪大学大学院生・関西外大非常勤講師の宮多良ディスネルさん、母語・母文化支援の立場から大阪府・大阪市母語支援者のヴァニア・アラウジさん、日本語学校で学び現在 1 児の親である社会人の立場から沈連俊さん、という方々のお話がありました。学習者・支援者としての体験談や、子育て、子どもの言語獲得の問題について等多くの話が出ました。

★アンケートから「それぞれの実体験に基づく意見をお聞きして、自分の気づかない、学習者の感じ方について考えることができ、とても参考になりました。言語もさることながら、文化の違いは乗り越えるのが大変な上に説明して分かるものと長年の生活の中で分かるものがあることが分かりました」



講座を終えてみると、毎回中身の濃い内容でした。具体的な事例や問いかけも多く、大阪市は勿論、和歌山市、吹田市、松原市等々からの熱心な受講生の皆様にとって、分かり易く共感が得られたことと思います。また、講座を通しての新しい繋がりもできました。今後、更に子どもたちのニーズにあう日本語支援へのスキルアップや、ボランティア活動の運営方法について等の講座に繋がっていくことを願っています (Y.T)



海外子ども事情

『ニューヨーク市高校訪問記 ②』

(桃山学院大学国際教養学部、

おおさかこども多文化センター 会員・友沢昭江)

前回はNY市の高校に関する基本データや教育概念などについて述べましたが、今回は移民教育で実績を上げている高校の一つを紹介します。



リバティー高校の図書室。日本の学校のような広い校庭も体育館もない大都市ニューヨークの学校だが、図書室とコンピューター室は完備されており、その利用率はとて高い。

NY市のマンハッタンの中心、チェルシー地区にあるリバティー高校(正式名は Liberty High School Academy for Newcomers)は2011年に創立25周年を迎えた比較的新しい高校です。1986年のスタート時はアメリカに来て間もない生徒を1年間引き受け、ESL(第二言語としての英語)に重点を置きつつ、生徒の母語を活用した学科目授業を行い、その後は従来の高校に編入させていましたが、2003年に高校卒業に必要な授業をすべて提供する四年制の高校へと編成替えが行われました。その理由は1年間の教育を受けただけの生徒の場合、NY州の卒業要件試験(Regents Examination)に合格することがむずかしいため、学校の評価に不利になると考える高校が引き受けを渋る例が相次いだため、自分たちで4年間の教育を完成させようと考えたためでした。

私は1997年4月にリバティーを訪問し、母語による学科目授業の充実ぶりに感動したこともあり、四年制の普通高校となったリバティーを今回2011年3月に再訪することを楽しみにしていました。1997年当時も副校長であったシャーキー先生と再会し、この間の取り組みについてじっくりとお話を伺いました。ちなみにリバティー創立当時から勤務するシャーキー先生は2011年夏に定年退職をされましたが、彼のようにひとつの学校に長く勤め、じっくりとその学校の教育改善に取り組むことは珍しいことではありません。

現在の生徒数は420名、基本的には8年生(中学卒業)まで母国で学んだ生徒を受け入れており、出身国は50カ国、30言語という多様さです。ヒスパニック 37%、アジア系 29%、アフリカ(カリブ海含む)系 16%、白人 15%の構成で、95%の生徒が無料ランチを受ける社会経済的には厳しい家庭出身です。大半の生徒は英語力がゼロで入学するため、毎日3時間の集中英語のほか、数学と理科(science)はスペイン語、中国語、ポーランド語と英語のバイリンガルで行われています。母語の読み書き力が十分でない生徒のために、スペイン語と中国語の読み書きクラスも設置されています。英語、数学、理科、アメリカ史、世界史の5科目にわたる Regents Exam は移民ばかりのリバティー高校といえどもハンディーは考慮してくれないので合格は厳しいのですが、途中で帰国したり、他校へ転校する、アメリカの他の地域に移る生徒など移動も激しい中、卒業率は近年80%程度を保っています。卒業率が悪い場合には市教育委員会からの指導が入り、問題の指摘、改善方法の提示がなされます。改善が達成されない場合学校閉鎖となってしまうので、学校側はさまざまな努力をしています。3名のバイリンガルカウンセラー(スペイン語2名、中国語1名)が細かな相談に対応し、大学進学アドバイザーは地元の大学への進学を促進しようと努力しています。



中国人生徒の書いた世界史(バイキング)の授業の作品。英語表記の中に中国語の表記も見られる。

近年増加しているアフリカから戦争の惨禍を逃れてやってくる難民生徒の中には、ほとんど教育を受けた経験のない者や過酷な経験がトラウマとなり精神的に不安定な生徒、視力、言語、動作面でハンディキャップを抱える生徒などがいます。そんな彼らに対応する心理面の専門家(school psychologist)の指導が週に2回あります。英語を少し話せても音と綴りが一致しないなどの問題を抱える生徒のためのプログラムを担当する特別教育担当教員(英語とスペイン語のバイリンガル)からも、ユニークな指導法について話を聞くことができました。具体的な授業観察については次回に報告します。



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り③『家の前の教会のフェリア(お祭り)』

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

学校もいよいよ最終週。木曜日から進級テストが始まります。しっかり勉強しなければと決意していた日曜日の夜、勉強を始めると突然どっかーんという大きな音。ガス工事でもしていて爆発が起きたのかと思うほどの大きさ。それも10分、15分間隔で聞こえてきます。勉強どころではなくなり、音がするたび窓から外を見ましたがよくわかりません。別に人が騒いでる様子もなく、家の向かいの小さな公園には移動遊園地が来ていました。教会のそばにあるその公園ではロックコンサートでもしているのかと思うほどの大音量で音楽が流れ、多くの露天が並んでいます。夜中の12時を過ぎても音楽は鳴り止まず、あまりのうるさに勉強どころではなくなり、あきらめて耳をふさぐようにしてその日は眠りました。

次の日も学校から帰ると同じ状態が続いています。いったい何なのだとその辺りにいた人に聞くと、教会のお祭りだという答。そこで教会の中に入ってみると、丁度ミサの真っ最中でした。神父さんがメロディーにのせて説教すると、前



にずらっと並んだ15人位の楽団が、トランペットやトロンボーン、ギターなどで伴奏し、中にいる人たちも神父さんに合わせて唱和します。楽団のソリストによる賛美歌はとてもリズムカルで、ヨーロッパの教会の荘厳な雰囲気とはまったく異なり、ここメキシコでは教会音楽にもぎやかなマリアッチでした。外ではシスターたちが手作りのお菓子やタコスのお店を出し、やはり別の楽団が広場で演奏しています。しばらくそれを見てみると、またあの爆発音。そこで私のアパートのガードマンのフィデルに、

いったい何の音かと聞くと、彼は「戦争が始まったんだよ」と一瞬、私を驚かし「本当は花火だよ」と笑いながら言いました。そこでよく気をつけて空を見ると上がっていました。子どもがよくやっているあの打ち上げ花火です。でもその花火、とてもしょぼいのです。細い火がシュルシュルと短く上がってはパッと消えます。なのに音だけはめちゃくちゃ大きいのですから閉口です。その日もまたまた勉強できず寝ることにしました。

そして、次の日も相変わらずです。思い余って、私はフィデルに「ここの住民はこんなに夜遅くまでうるさいのに文句言わないの」と聞きました。すると彼は「言わないよ。みんな祭りに参加してるんだから」ですって。なるほど、それでは言うわけないわなー。そこではたと気がつきました。あ、そうか私も見ているだけじゃなく、参加すればいいんだと。もう試験勉強はすっぱりあきらめて出かけることにしました。

ナタという今川焼きのようなお菓子をほおばり、大音量のロック音楽を聴きながら縁日を見て回りました。移動遊園地は回転木馬、コーヒーカップ、バイキング、小さいですが観覧車まであります。たくさん露天が出て、お菓子やパン、何十種類もの豆やチレ(メキシコの唐辛子)、直径5、60センチはあるチチャロン(豚の皮を油で揚げたもので、細かくちぎってサルサソースや、チレをまぶしておやつとして食べたり、スープの具にする。食感は少し油っぽい車麩かな)そのほかには、ろうそく、アクセサリー、各地の民芸品など、さまざまなものが売られ、臨時食堂では親子連れがタコスやポソレ(鶏肉やとうもろこしが入った実だくさんのスープで、9月16日の革命記念日の前夜には必ず各家庭独自のものを食べる習慣がある)を食べ、子どもたちはヨーヨーつりや、射的に興じています。そのそばでは父

親が微笑みながら子どもを見ている。こうしてみんな日付けが変わるまで3日間のお祭りを楽しんでいました。お陰で私はトホホ…の成績でしたが、なんとか進級だけはできました。





外国から来た人を地域で支える 『にほんごサポートひまわり会』

(大阪市平野区)

にほんごサポートひまわり会は、2003 年から大阪市平野区で、外国から来た人たちの日本語学習支援をしているボランティアグループである。当初は中国帰国者の家族がほとんどだったが、しだいに、ペルー、ベトナムなどから来た人が増え、2012 年 1 月現在、学習者は 60 人(うち子ども 26 人)、ボランティアは 35 人になっている。学習者もボランティアも多くが平野区とその周辺の居住者で、外国から来た人を地域で支えることを目標として活動している。

2004 年頃から、外国から来た人の子どもたちの日本語と教科支援を始めた。そのきっかけになったのは、日本語教室に來ているある母親からの「子どもが学校の勉強がわからなくて困っている」という相談だった。その子の場合、両親ともに日本語がほとんどできないので、家庭で日本語に触れる機会がなく語彙が不足していた。そのため、授業や教科書の内容が理解できなかったのだ。

外国から来た人の家庭では、「家庭生活が母国式なので、日本の生活習慣や文化などに対する知識がない」、「親が日本語ができない場合、子どもの疑問に答えてやれないし、言葉の誤りを訂正できない」、「日本語での意思疎通や気遣いが難しいため、友だちを得にくい」、「学校の先生以外の日本人の大人との交流がほとんどない」などの状況がある。そのため日常会話ができる子どもでも支援を必要としているのだが、それが見えにくいので周囲の理解が得られず孤立してしまう。中には、自分はこんなものだとあきらめてしまい、学習意欲を失う子もいる。



そこでひまわり会では、毎週土曜日の日本語教室のほかに、子どもを対象とした次のような取り組みをしている。

①宿題教室…毎週土曜日と夏休みなど、高校生や大学生も応援に来る中マンツーマンで日本語および教科の学習をサポートしている。また、子どもたちの体験を増やすため、調理や工作なども一緒に行い、その中でのおしゃべりも大切にしている。

②小中学校での学習サポート…子どもの支援をするには学校との連携は不可欠で、2006 年から、小中学校から要請があれば、放課後等にボランティアが日本語や教科の学習をマンツーマンで支援している。

③子育て日本語サロン…外国から来た子どもの場合、幼児期からのかわりがとくに大切だとこの観点から、毎週土曜日、就学前の子どもと保護者のために、遊びながらの日本語学習、子育て情報の提供などを行っている。このサロンには日本人ボランティアに子ども連れで参加してもらい、親子で遊びながら交流している。

④その他…日本語教室のお弁当づくり講習会、たこ焼きパーティーなどのイベントに子どもも参加する。

ひまわり会では家庭や学校と連絡をとりつつ地元の「おばさん」「おにいさん」として子どもに接することで、親や学校の先生とは違った立場で子どもたちの健全育成に一定の役割を果たせているのではないかなと思っている。微力ではあるが、子どもたちが将来への希望をはぐくめるよう支えていきたい。(代表 斎藤裕子)

連絡先: E-mail himawarj1511@gmail.com TEL 090-6676-5839

.....

おおさかこども多文化センターからのお知らせ～事務所が移転しました

昨年 4 月にPiaNPOビルに事務所を構えて、本格的に活動を始めたおおさかこども多文化センターですが、1 月 29 日に移転しました。新事務所は、西区の高砂堂ビルです。同じフロアーに、(財)アジア太平洋人権情報センター(ヒューライツ)と(特活)大阪環境カウンセラー協会が一緒に入居しています。

新事務所では、大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご)所蔵の日本語教材・資料・報告書などが閲覧できます。また、日本語教育や渡日生の教育相談もできます。

地下鉄本町駅近く、交通の便が良いところです。お気軽にお立ち寄りください。

皆様の来訪をお待ちしています!! 【開室日 月曜日から金曜日 10:00～17:00】





イベント情報

～おおさかこども多文化センター、および関係団体主催のイベントです～

▼「高校生のための日本語 春期講座」

生活に必要な日本語を学びましょう！高校の授業がわかるように日本語を学びましょう！

対象は、大阪府内の高校に学ぶ帰国・渡日生。4月に高校に入学する人も参加することができます。

希望者には個別の日本語指導の時間もあります。

日 時：2012年3月15日(木)16日(金)17日(土) 13:30～17:00 個別指導は 10:30～12:30

場 所：大阪市立港区民センター（大阪市港区弁天2-1-5）

主 催：NPO法人おおさかこども多文化センター（詳細はTel 06-6586-9477にお問合せ下さい）

▼「高校生活オリエンテーション」

日 時：2012年3月31日(土) 13:00～16:00

場 所：大阪府立今宮工科高校

対象者：24年度大阪府立高校に入学する帰国・渡日生徒および保護者

「学校のルール」「卒業後の進路」「学費」など、日本の高校生活で大切なこととお話します。卒業生の体験談も聞くことができます。保護者の方と一緒に参加してください。（通訳付）

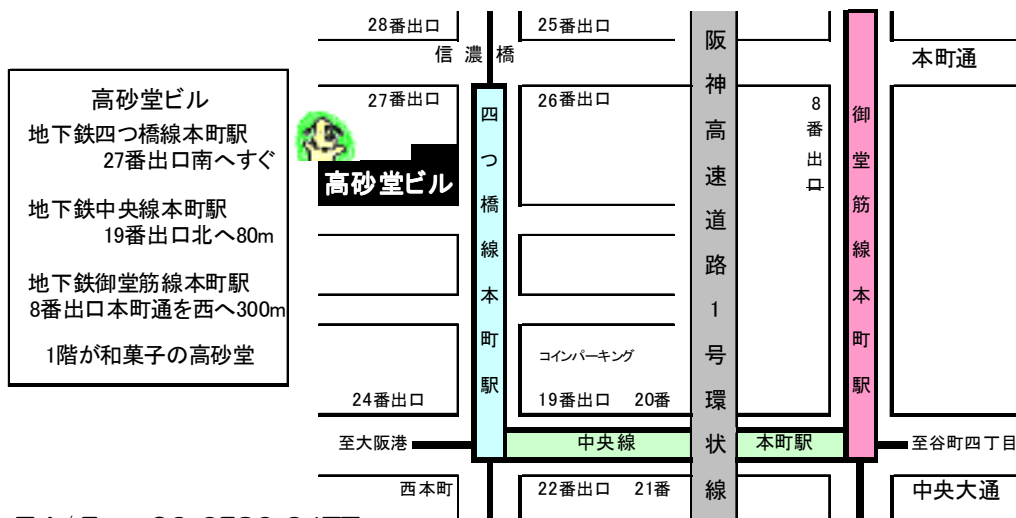
問合せ先：大阪府日本語教育支援センター（ピアにほんご）Tel 050-3513-1497

大阪府教育委員会児童生徒支援課 Tel 06-6491-0351（内線 3435）

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 高砂堂ビル8階



Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://www.osakakodomo.sactown.jp>

郵便振込 【記号】14140【番号】68893051
（他金融機関からは【店名】四一八（ヨイチハ）【店番】418
【預金種目】普通【口座番号】6889305）

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』
（ワガナ：トクヒ）オオサカコドモタブンカセンター」

新しい事務所に
行ってみよう！

